

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:2024年3月1日

事業所名 子ロバキッズひろば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		○コーナーに子どもが集まりすぎた場合、他の玩具など勧めたり、じっくり遊べるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		○同敷地内に学童もあるため学童保育の職員にも兼務してもらうなど最低基準以上の人員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		○遊ぶ場所、集まって先生に注目する机など、変わることなく分かりやすくなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		○毎日の掃除と、いつも決まった場所に玩具が片付けている。 ○月1回の居室見直しを行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		○全職員の一日の業務予定を毎日掲示し月ごとの業務予定も示し見直しをもって業務をすすめている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		○アンケートを通して療育内容や伝え方など検討している。	○個人情報に配慮しながらも動画、写真をもっと気軽に見ることができるようにする。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		○ホームページで公開、掲示板での掲示、保護者の方へ毎年お渡ししている。また相談機関の方にも配布している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		○第三者評価を今後受けるよう計画している。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		○様々な研修を紹介してもらい、積極的に勧められている。 ○法人内研修を頻度に行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		○保護者のニーズを伺ったうえで、子ども自身の困りごとと照らし合わせ、計画を立てている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		○病院からの検査結果をもとに、専門職による解釈を適宜行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		○ガイドラインに基づき個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>			○時折、計画に沿えない時があり、都度計画を修正することも必要。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		○年間カリキュラム、月案を組み立て、日々子どもの発達に合わせて課題調整や、月ごとのテーマに合わせて活動に変化をつけている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		○ミーティングを行い、その日の動き、役割を確認している。また日課(子どもの動き・職員の動きを示したもの)を作成しており、同じ職員が、同じ時間に同じ手順で支援ができるようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		○終了後のミーティングではないが、気づいたことはこまめに共有するよう意識している。 ○問題行動の分析を行い次回の療育を検討している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		○通院同行や当事業所が作成したフローチャートを確認してもらっている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		○サポートブックを通してお伝えすることや要望に合わせて必要であれば訪問しお伝えしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		○就学相談の話し合いの場など設けて頂いている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		○発達障がい者支援センターでは、ペアレントトレーニングファシリテータ講座に今年は参加させていただいた。 ○地域の事業所の方と連携を図っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		○午前療育では、保育園の中で交流する機会がある。 ○同法人内に保育園があるので交流しやすい。	○交流する時間が設けられないクラスがある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		○当事業所は送迎がないため保護者の方と直接お話する機会が多い。	○十分にお伝えできていない時もありゆっくりお話しできるスペースを確保する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		○今年もペアレントトレーニングを実施いたしました。10名の保護者の方が参加されました。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		○当事業所の卒園された保護者の方が親の会を立ち上げられた。当事業所の場所を提供するなど活動を応援している。 ○各クラスでの懇談会を実施している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		○面談日程を早く設けるように心がけている。また公認心理師・作業療法士・言語聴覚士・特別支援教育士もいるためニーズに合わせて専門職が対応できるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			○発信方法を紙媒体だけでなくメールやホームページで頻度に見れるようにする。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		○視覚支援・手話・サインなど多様な方法を用いている。	
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		○地域の方に支えてもらい活動を行っている。地藏盆、地域の祭り、避難訓練など一緒に参加している。	○招待するよりも、招待されることの方が多い。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		○各クラス年間2回以上の避難訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		○子どもと一緒に避難訓練を行う機会を設けている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		○必要に応じて看護師とともにフローチャートを作成している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		○医師の指示書によりアレルギー対応を行っている。毎月の献立にてアレルギー確認を行っている。また当事業所の給食は全てアレルギーフリーとなっており、3大アレルギーは除去している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		○虐待防止委員会・身体拘束適正化検討委員会のもと研修を行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。